Call 公募	HORIZON-CL3-2026-01-DRS-03
Project	**Development of innovative tools, processes, equipment and technologies through responses to disasters and emergencies for search and rescue in hazardous conditions** HORIZON-CL3-2026-01-DRS-03
Topic description トピックの説明	期待される成果： 本プロジェクトの成果は、以下の期待される成果の**一部またはすべて**に寄与することが期待される： ● さまざまな実務者や、車両、航空機、重機などの資産の災害・緊急事態への対応能力を強化するための、最先端のツール、プロセス、設備、および技術の開発； ● 既存の技術を踏まえ、山火事、地震、大規模災害などの危険な状況下における救急医療対応や捜索救助活動のために特別に設計された自律型ドローン、ロボット技術、およびその他の技術の開発； ● 災害発生時に、先進的な技術主導型ソリューションを導入することで、被災者および救急従事者の対応効率と安全性を向上させること； ● 資産の配備および移動の可否を検討するにあたっては、EU レベルでの既存の能力、緊急備蓄、および備蓄の状況を考慮に入れること。 スコープ： このトピックの対象範囲は、複雑かつ危険な災害現場で活動する緊急対応要員の能力を向上させるための、革新的なツール、装備、および技術の開発である。スマート防護装備、ロボティクス、自律システム、リモートセンシング、通信、および人体センシング技術の進歩を活用することで、特に山火事、地震、大規模な外傷事故といった高リスクな状況において、救急医療対応や捜索救助活動の効率、安全性、および有効性を向上させることを目的としている。 提案書では、被災地において重要な任務を遂行できる革新的なソリューションの設計、試験、および検証について検討すべきである。これらの技術は、高温、不安定な地形、視界不良の環境といった過酷な条件下でも動作するよう設計されるべきであり、年齢、性別、能力の如何にかかわらず、すべての人々に有益であるべきである。研究では、自律航行、AI を活用した意思決定、リアルタイムの状況把握、および災害管理で用いられている既存の指揮統制システムとのシームレスな統合に関連する課題に取り組むべきである。市場への適切な浸透を図るため、さまざまな実務者間の連携を支援すべきである。 さまざまなプラットフォーム、緊急対応チーム、および危機管理システム間の相互運用性とデータ共有能力を強化するための取り組みを行うべきである。本研究の重要な側面として、実際の災害シナリオを想定した実地演習やシミュレーションを通じて、これらの技術を実用的に導入・検証することが挙げられる。包括性とアクセシビリティを優先したユーザー主導のデザインアプローチにより、開発されるソリューションが、災害時の対応要員の業務上のニーズに確実に合致するよう確保すべきである。提案書では、あらゆる活動を組織化できる指揮統制ソリューションを策定し、いかなる災害に対しても迅速かつ協調的かつ効果的な対応を可能にするとともに、プロジェクト終了後の導入に向けた明確な計画を盛り込むべきである。 各プロジェクトでは、ステークホルダー分析または市場分析を実施するとともに、開発された方法論、調査結果、および技術を産業界、研究・イノベーションコミュニティ、ならびに関係当局に普及させるためのロードマップまたは計画を策定すべきである。ニーズに基づいたアプローチを確保するため、ロードマップにおいては、欧州市民保護プール[1]の現在の対応能力、その能力の不足[2]、rescEU 戦略的備蓄[3]、および EU 備蓄戦略を十分に考慮すべきである。したがって、提案においては、洪水対策や大容量ポンプ、輸送機や緊急対応用航空機、避難所や発電機、地上消防車、空中消火ヘリコプターなど、より大型の資産に関する革新的な取り組みを検討することが考えられる。 さらに、提案においては、緊急対応における自律型技術の導入に伴う倫理的、法的、社会的影

	響についても考慮すべきである。これらの革新技術に責任を持って効果的に活用するためには、データのプライバシー、サイバーセキュリティ、人および動物の生命の保護、社会的受容性、規制枠組みへの準拠といった課題に対処する必要がある。 各プロジェクトは、実務担当者に、生命を脅かす環境下でも安全かつ効率的に活動する能力を高める最先端の技術的ソリューションを提供することにより、欧州の災害対応能力の強化に寄与すべきである。開発されたソリューションの拡張性と実社会での適用性を最大限に高めるため、EU の政策や国際的なベストプラクティスとの整合性を確保すべきである。この点において、「防災連合戦略」は重要な文書である。「予防・防災のための実践的知識（KAPP）」[4]など、運営助成金によるプロジェクトとの相乗効果を見出すことが推奨される。 技術成熟度レベル - 完了したプロジェクトに期待される技術成熟度レベル 本プロジェクトの終了までに、各活動において TRL 7～8 の達成が見込まれている（一般付属書 B を参照）。 [1] https://civil-protection-knowledge-network.europa.eu/media/ecpp-capacities-brochure [2] https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX:52025DC0286 [3] https://civil-protection-humanitarian-aid.ec.europa.eu/what/civil-protection/resceu_en [4] Knowledge for Action in Prevention and Preparedness (KAPP) - European Commission - https://civil-protection-humanitarian-aid.ec.europa.eu/funding-evaluations/financing-civil-protection/cp-calls-proposals/knowledge-action-prevention-and-preparedness-kapp-0_en